

ISSスクエア ネットワーク分科会 2025年度成果報告

2026年2月27日
ネットワーク分科会一同

目次

1. ネットワーク分科会紹介
2. 2025年度活動報告と実績
3. NTTドコモソリューションズ社内CTFへの問題提供
4. CTFかながわ2025への問題提供
5. チームごとの振り返り
6. まとめ

目次

1. ネットワーク分科会紹介
2. 2025年度活動報告と実績
3. NTTドコモソリューションズ社内CTFへの問題提供
4. CTFかながわ2025への問題提供
5. チームごとの振り返り
6. まとめ

ネットワーク分科会(NW分科会)メンバー

研究リーダー 寺田真敏 先生(中央大学)
宮本久仁男 先生(情セ大)

幹事 坂本圭(情セ大M1)
力石竜成(中央大学M1)
宇治川光(情セ大M1)
清水優(情セ大M1)

修士2年生 9名
(情セ大 8名、中大 1名)

修士1年生 9名
(情セ大 6名、中大 3名)

9名+9名=18名

ネットワーク分科会 (NW分科会)

セキュリティコンテスト (CTF: Capture The Flag)

への参加を通して、ネットワークやサイバーセキュリティに関する実践的スキル獲得を目指す

基礎力向上ステップ

- CTF勉強会
チームに分かれて勉強会を行い、分科会で共有



応用力向上ステップ

- CTF作問
CTFかながわ2025への作問協力
NTTドコモソリューションズ社内CTFへの作問協力

CTFに挑戦するメリット

- **楽しみながら**、情報技術の勉強ができる。
- 問題を試行錯誤しながら解くことで**オペレーション能力や応用力** が身につく。
- **採用試験** にCTF実施やCTF経験者の優遇する企業があること。
- 数値的な目標を設定でき、**達成できたかどうか**が**明確** である。

目次

1. ネットワーク分科会紹介
2. 2025年度活動報告と実績
3. NTTドコモソリューションズ社内CTFへの問題提供
4. CTFかながわ2025への問題提供
5. チームごとの振り返り
6. まとめ

2025年度達成目標

分科会活動を継続するための達成目標(研究リーダー設定)

[分]CTF問題の作問:2回(応用力向上ステップ、まとめステップ)

[チ]2025年度に分科会で作成したCTF問題への挑戦:ひとり1問以上解く

[個]pico CTFのpicoGym Scoreの獲得:(1年目、2年目共に)新規に1,000ポイント以上

ネットワーク分科会の達成目標(幹事設定)

初回の分科会活動で決定する

[達成目標]
2025年度:
・チームで問題を5問以上策問

[活動ポイント]
2025年度:
・攻防戦型のCTFへの挑戦

チームの達成目標(チーム設定) 新設

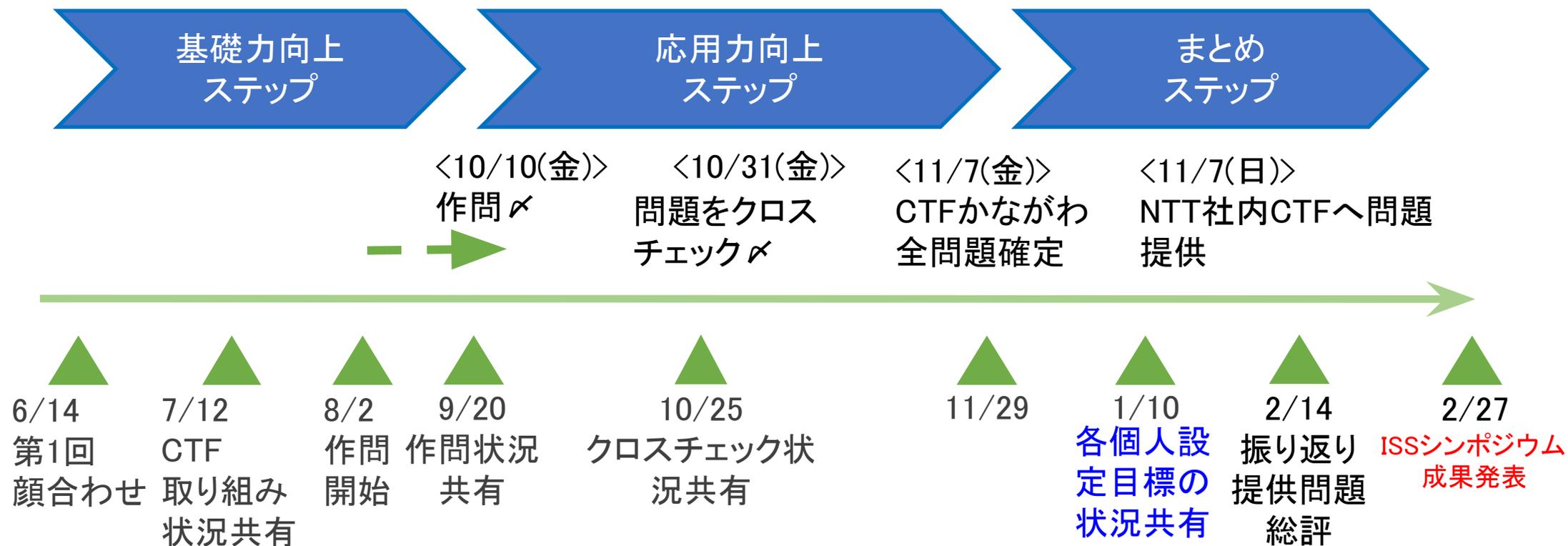
初回の分科会活動で決定する

[達成目標]
2025年度:
TeamA:新ジャンルの開拓
TeamB:チームで外部CTF参加
TeamC:チームで外部CTF参加
TeamD:1人あたり2問以上作問

個人の達成目標(学生設定)

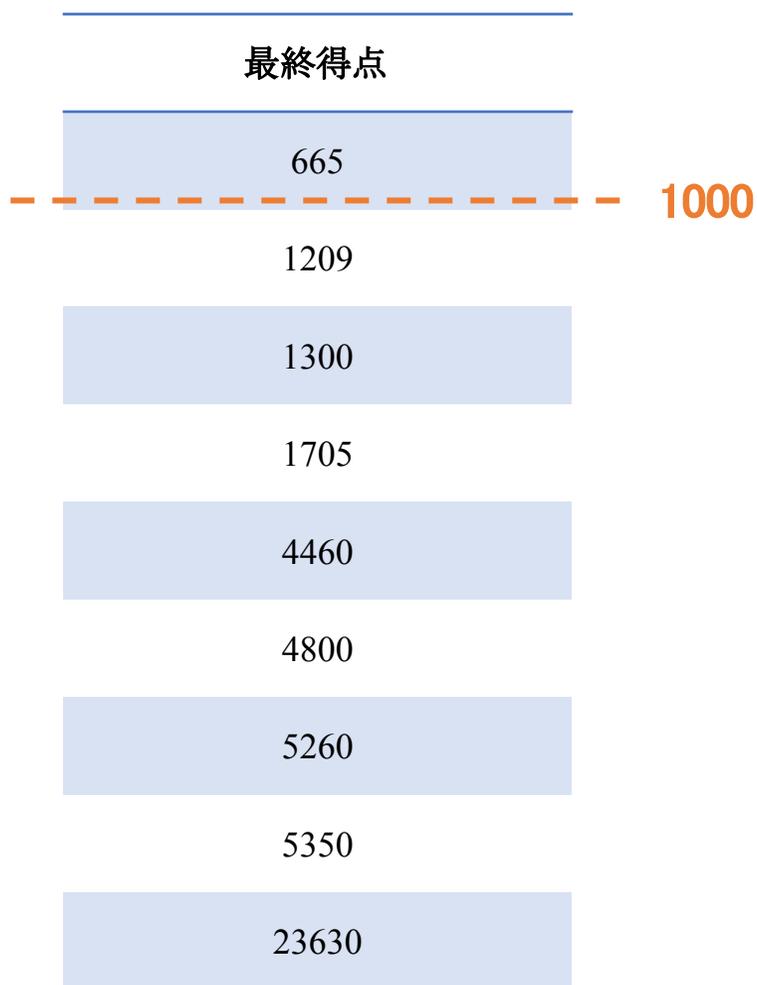
2025年度:
・外部CTF大会へ参加
・作問数
・picoGym score
など各々設定済み

活動スケジュール



分科会達成目標

picoCTFのpicoGym Score: ひとり **1,000** ポイント以上獲得する



チームごとの活動内容

- CTF勉強会の内容
 - picoCTF等を通してツールの使い方の勉強やCTFの問題になれる
 - 外部CTFへの参加

分科会達成目標

picoCTFのpicoGym Score: ひとり **1,000** ポイント以上獲得する

平均 **1500**ポイント 獲得

最大 3000ポイント 獲得

分科会全体として、当初目標を大幅に上回る成果を達成することができた

分科会達成目標

picoCTFのpicoGym Score: ひとり **1,000** ポイント以上の獲得する

Local Authority

```

1 <!DOCTYPE html>
2 <html lang="en">
3 <head>
4 <meta charset="UTF-8">
5 <meta name="viewport" content="width=device-width, initial-scale=1.0">
6 <meta http-equiv="X-UA-Compatible" content="ie=edge">
7 <link rel="stylesheet" href="style.css">
8 <title>Secure Customer Portal</title>
9 </head>
10 <body>
11
12 <h1>Secure Customer Portal</h1>
13
14 <p>Only letters and numbers allowed for username and password.</p>
15
16 <form role="form" action="login.php" method="post">
17 <input type="text" name="username" placeholder="Username" required
18 autofocus</br>
19 <input type="password" name="password" placeholder="Password" required>
20 <button type="submit" name="login">Login</button>
21 </form>
22 </body>
23 </html>
24

```

・ソースページを確認すると
気になるリンクが存在

・気になったリンクをクリックしたが、特に変な部分はなかった

・「login.php」をクリック

解決編 (絶対アドレス)

call_functionsはmainから呼ばれている。なのでmainへのリターンアドレスがあるはず

%\$pから順にmain()のアドレスがないか調査
。。。あった！

main()との差は0x41
main()とwin()の差は0x96

```

(gdb) r
The program being debugged has been started already.
Starting program: /usr/bin/picoctfwin
warning: Error disabling address space randomization: Operation not permitted
[Thread debugging using libthread_db enabled]
Using host libthread_db library "/usr/lib64/libthread_db.so.1".
Enter your name: 168p, 178p, 188p
0x7ffff5d0c89, 0xabbc075d96c400, 0x7fff369ffcd0, 0x5566b992c441, 0x1
enter the address to jump to, ex => 0x12345: ^C
Program received signal SIGINT, Interrupt.
warning: Frame 0x25, in _ct_ libc, read (fd=0, buf=0x5566ce46d2a0, nbytes=1
024) at ../sysdeps/unix/sysv/linux/read.c:26
26 ../sysdeps/unix/sysv/linux/read.c: No such file or directory.
(gdb) disassemble main
Dump of assembler code for function main:
0x00005566b992c404 <<+0>:  omrtd
0x00005566b992c405 <<+1>:  push %rbp
0x00005566b992c406 <<+2>:  mov %rdi,%rsi
0x00005566b992c407 <<+3>:  lea -4(%rip),%rsi # 0x5566b992c404
0x00005566b992c408 <<+4>:  call @plt(%rip),%rax # 0x5566b992c400
0x00005566b992c409 <<+5>:  mov %rdi,%rdi
0x00005566b992c40a <<+6>:  call @plt(%rip),%rax # 0x5566b992c400
0x00005566b992c40b <<+7>:  mov %rdi,%rdi
0x00005566b992c40c <<+8>:  call @plt(%rip),%rax # 0x5566b992c400
0x00005566b992c40d <<+9>:  mov %rdi,%rdi
0x00005566b992c40e <<+10>: call @plt(%rip),%rax # 0x5566b992c400
0x00005566b992c40f <<+11>: mov %rdi,%rdi
0x00005566b992c410 <<+12>: call @plt(%rip),%rax # 0x5566b992c400
0x00005566b992c411 <<+13>: mov %rdi,%rdi
0x00005566b992c412 <<+14>: call @plt(%rip),%rax # 0x5566b992c400
0x00005566b992c413 <<+15>: mov %rdi,%rdi
0x00005566b992c414 <<+16>: call @plt(%rip),%rax # 0x5566b992c400
0x00005566b992c415 <<+17>: mov %rdi,%rdi
0x00005566b992c416 <<+18>: call @plt(%rip),%rax # 0x5566b992c400
0x00005566b992c417 <<+19>: mov %rdi,%rdi
0x00005566b992c418 <<+20>: call @plt(%rip),%rax # 0x5566b992c400
0x00005566b992c419 <<+21>: mov %rdi,%rdi
0x00005566b992c41a <<+22>: call @plt(%rip),%rax # 0x5566b992c400
0x00005566b992c41b <<+23>: mov %rdi,%rdi
0x00005566b992c41c <<+24>: call @plt(%rip),%rax # 0x5566b992c400
0x00005566b992c41d <<+25>: mov %rdi,%rdi
0x00005566b992c41e <<+26>: call @plt(%rip),%rax # 0x5566b992c400
0x00005566b992c41f <<+27>: mov %rdi,%rdi
0x00005566b992c420 <<+28>: call @plt(%rip),%rax # 0x5566b992c400
0x00005566b992c421 <<+29>: mov %rdi,%rdi
0x00005566b992c422 <<+30>: call @plt(%rip),%rax # 0x5566b992c400
0x00005566b992c423 <<+31>: mov %rdi,%rdi
0x00005566b992c424 <<+32>: call @plt(%rip),%rax # 0x5566b992c400
0x00005566b992c425 <<+33>: mov %rdi,%rdi
0x00005566b992c426 <<+34>: call @plt(%rip),%rax # 0x5566b992c400
0x00005566b992c427 <<+35>: mov %rdi,%rdi
0x00005566b992c428 <<+36>: call @plt(%rip),%rax # 0x5566b992c400
0x00005566b992c429 <<+37>: mov %rdi,%rdi
0x00005566b992c42a <<+38>: call @plt(%rip),%rax # 0x5566b992c400
0x00005566b992c42b <<+39>: mov %rdi,%rdi
0x00005566b992c42c <<+40>: call @plt(%rip),%rax # 0x5566b992c400
0x00005566b992c42d <<+41>: mov %rdi,%rdi
0x00005566b992c42e <<+42>: call @plt(%rip),%rax # 0x5566b992c400
0x00005566b992c42f <<+43>: mov %rdi,%rdi
0x00005566b992c430 <<+44>: call @plt(%rip),%rax # 0x5566b992c400
0x00005566b992c431 <<+45>: mov %rdi,%rdi
0x00005566b992c432 <<+46>: call @plt(%rip),%rax # 0x5566b992c400
0x00005566b992c433 <<+47>: mov %rdi,%rdi
0x00005566b992c434 <<+48>: call @plt(%rip),%rax # 0x5566b992c400
0x00005566b992c435 <<+49>: mov %rdi,%rdi
0x00005566b992c436 <<+50>: call @plt(%rip),%rax # 0x5566b992c400
0x00005566b992c437 <<+51>: mov %rdi,%rdi
0x00005566b992c438 <<+52>: call @plt(%rip),%rax # 0x5566b992c400
0x00005566b992c439 <<+53>: mov %rdi,%rdi
0x00005566b992c43a <<+54>: call @plt(%rip),%rax # 0x5566b992c400
0x00005566b992c43b <<+55>: mov %rdi,%rdi
0x00005566b992c43c <<+56>: call @plt(%rip),%rax # 0x5566b992c400
0x00005566b992c43d <<+57>: mov %rdi,%rdi
0x00005566b992c43e <<+58>: call @plt(%rip),%rax # 0x5566b992c400
0x00005566b992c43f <<+59>: mov %rdi,%rdi
0x00005566b992c440 <<+60>: call @plt(%rip),%rax # 0x5566b992c400
0x00005566b992c441 <<+61>: mov %rdi,%rdi
0x00005566b992c442 <<+62>: call @plt(%rip),%rax # 0x5566b992c400
0x00005566b992c443 <<+63>: mov %rdi,%rdi
0x00005566b992c444 <<+64>: call @plt(%rip),%rax # 0x5566b992c400
0x00005566b992c445 <<+65>: mov %rdi,%rdi
0x00005566b992c446 <<+66>: call @plt(%rip),%rax # 0x5566b992c400
0x00005566b992c447 <<+67>: ret
End of assembler dump.

```

ストに変換
ミウ
pythonオブジェクトに変換

学んだこと

Python eval, exec には注意が必要

```
cypher = eval(open("output.txt","r").read()) #文字列をPythonオブジェクトに変換
```

```
QuantumScrambler > output.txt
1 __import__ ('subprocess').run(['cat', '/etc/passwd'])
2
```

/etc/passwd の中身がcypherに渡されてしまう

安全:

```
import ast
cypher = ast.literal_eval(open("output.txt","r").read()) #安全に文字列をPythonオブジェクトに変換
```

各チームからの取組み状況共有

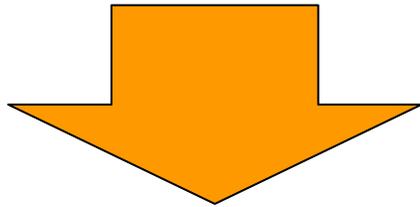
学んだことの相互理解ができた

2. 2025年度活動報告と実績

分科会幹事達成目標

活動ポイント: 当初の予定から変更をした

攻防型CTFの挑戦(新ジャンル)



CTFで使うツールの解説(基盤整備・手順化)

* 変更した理由

- ・攻防型CTFは 準備工数・実施難易度が高く、年度内の実施が困難
- ・実施に必要な前提(環境整備／役割分担／基礎習熟)の確保が課題

2. 2025年度活動報告と実績

分科会幹事達成目標

活動ポイント: CTFなどで使うツールの解説

- 2023年度
 - ・主に、CTFを**解くため**にChatGPTを利用
- 2024年度
 - ・**作問**にChatGPTを活用
- 2025年度
 - ストレートマスター増で、スキル/経験のばらつきが拡大、相互支援で回答力+作問力を上げる
 - ・ツールの使い方の共有
 - ・使ったツールのフィードバック

→ 新ジャンルの開拓はできなかった

分科会幹事達成目標

活動ポイント: CTFなどで使うツールの解説 → ツールの使い方の共有

- ツールの使い方の共有

- Web、暗号、マルウェア解析など自分がCTFで触れてこなかった分野に触れる機会を獲得

まあ便利



```
$ cyclic 16  
aaaabaaacaaadaaa  
デフォルトでは4バイトごとに繰り返し
```

```
$ cyclic 16 -n 8  
aaaaaaaaabaaaaaaa  
オプションで繰り返しの長さ調整
```

何に使うの？
→ buffer overflowで入力値が特定のアドレスに到達するために何文字必要かを知るため
→ それを知って、書き換えるアドレスまで適当な値を入れる

ghidra

- ghidraとは？
 - オープンソースのリバースエンジニアリングツール
 - 主にマルウェア解析やソフトウェア脆弱性の発見などに使用
 - アメリカ国家安全保障局（NSA）が開発元

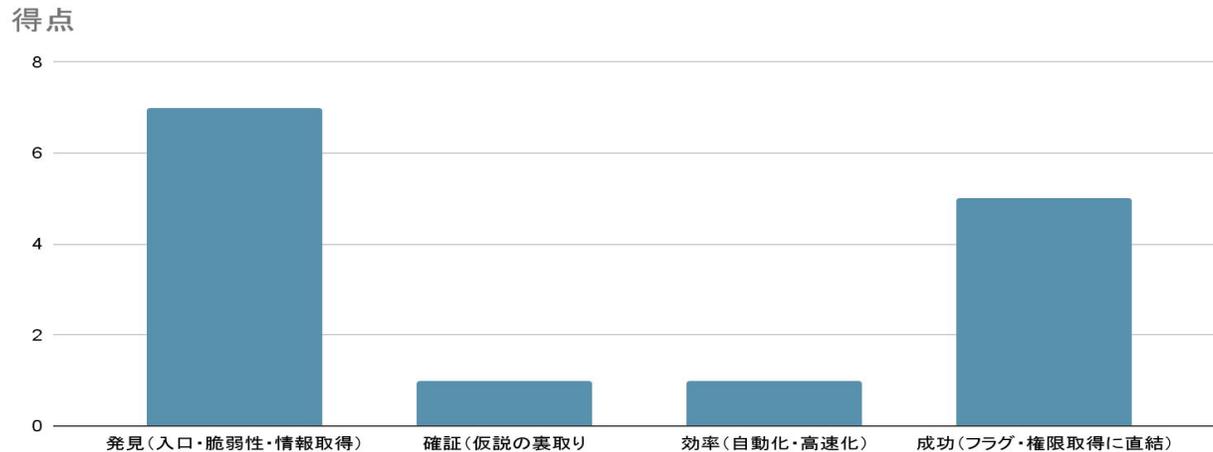
マルウェアの解析には中身の分からないファイルを動的解析するのは危険が伴うが、ghidraは実行を伴わない手段で解析を行うことが可能である。

- またCTF攻略の効率化的なツールの運用などの知識共有及び普遍化ができた

分科会幹事達成目標

活動ポイント: → CTFなどで使うツールの解説 → 発表されたツール等のフィードバック

- 発表されたツール等のフィードバック等
- ・特に問題解決に使えたCTFツール使用状況アンケート17件の回答



- ・各チーム内からの上記ツールへのフィードバック

CyberChef、nmapなどは必須級であり、初学者であれば使い方だけではなく、どのような場面と状況で使ったほうが良いか、トレーニングできれば良かった。

2. 2025年度活動報告と実績

分科会幹事達成目標

活動ポイント: CTFなどで使うツールの解説、新ジャンル開拓 → まとめ

- CTFなどで使うツールの解説

- ・CTFで使用するツールの使い方を共有し、Web/暗号/マルウェア解析など、各自が触れてこなかった分野への導入機会を作れた

- ・アンケート結果から、特に **CyberChef / nmap / pwntools** が問題解決に有効で、使用頻度も高かった

- ・一方で「使い方」だけでなく“**どの局面で使うか(判断基準)**”と**短い演習**があると、初学者の定着がさらに進むと分かった

- ・次年度では、必修ツール(CyberChef/nmap/pwntools など)を定義し、**使いどころ+ミニ演習**までセットで共有するまでしたいと思った。

- 新ジャンル開拓

今年度は達成することができなかった

より多くのCTF問題に触れるなどして知識を獲得することで新ジャンルを開拓することができるかもしれない

目次

1. ネットワーク分科会紹介
2. 2025年度活動報告と実績
3. NTTドコモソリューションズ社内CTFへの問題提供
4. CTFかながわ2025への問題提供
5. チームごとの振り返り
6. まとめ

分科会幹事達成目標

活動ポイント: チームで問題を5問以上作問 → CTF問題の提供へ

- 21問作問・提供
 - 学生: 20問
 - チームA: 4問
 - チームB: 5問
 - チームC: 5問
 - チームD: 6問
 - 先生(チームT): 1問

2. セキュリティコンテスト概要 (予定)



- ・ 開催規模は例年同等(200名前後)程度を想定しています。
- ・ 競技日時は昨年同様終日3日間とし、翌日に解説会を実施予定です。
- ・ 解説は後日資料などで公開する予定です。

第14回 dSOLセキュリティコンテスト	
開催日時 (日程検討中)	競技日程: 2026年1月20日(火) 9:30~17:00 2026年1月21日(水) 9:30~17:00 2026年1月22日(木) 9:30~17:00 解説会: 2026年1月23日(金) 14:00~17:00 (開催検討中) ※競技時間中、コンテスト環境への出入りは自由です
会場	競技: オンライン開催のため特になし 解説会: オンライン+現地のハイブリッド形式 (会場検討中)
参加対象者	NTTドコモソリューションズおよびNTTドコモグループ社員
実施内容	事務局が用意したセキュリティに関する幅広い知識/スキルを問う問題に挑戦し得点を競う。 具体的には以下のような問題の出題を予定している。 <ul style="list-style-type: none">・ システム開発におけるセキュリティ知識/スキルを問う問題・ 脆弱なソースコードをレビューし適切に修正する問題・ システムを調査しセキュリティ脆弱性を指摘する問題・ インシデントの証拠を分析し被害の予測や攻撃者の特定を目指す問題・ 日常の業務におけるdSOLのセキュリティに関するポイント・ルールを問う問題・ その他セキュリティ全般の知識/スキルを問う問題

© NTT DOCOMO SOLUTIONS, Inc. 2025
NTT DOCOMO SOLUTIONS, Inc. CONFIDENTIAL PROPRIETARY

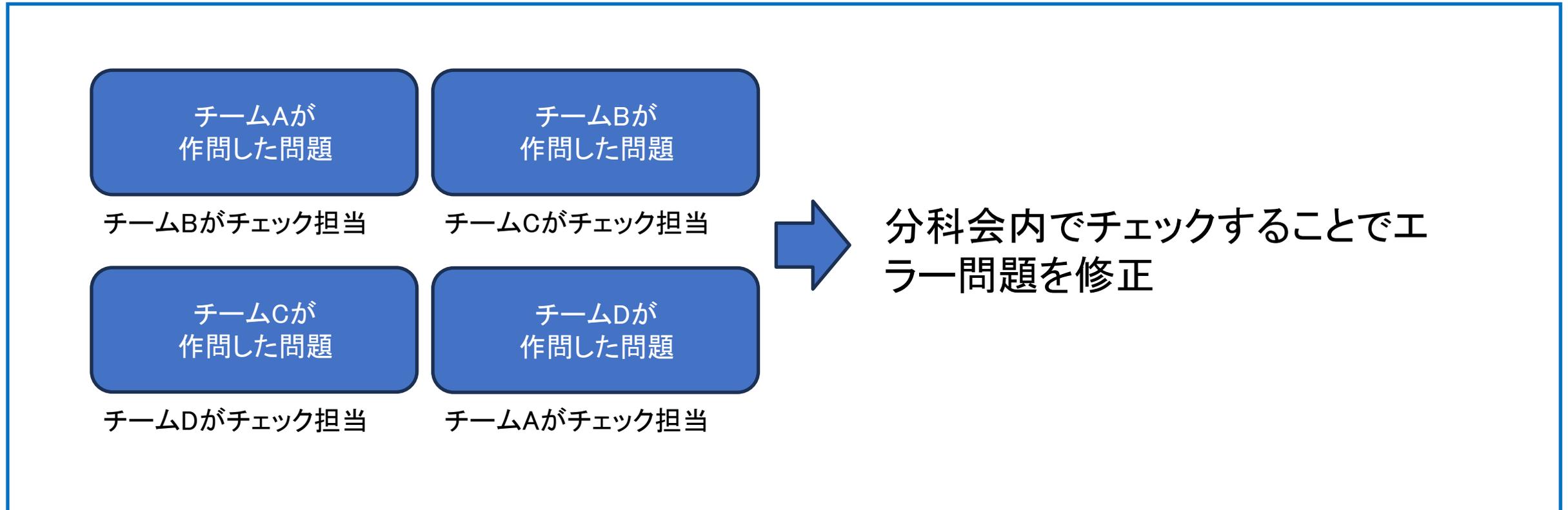
2

「NTTドコモソリューションズ様社内
CTF」概要

分科会幹事達成目標

活動ポイント: チームで問題を5問以上作問 → CTF問題の提供へ

- 分科会内でのクロスチェック



3. NTTドコモソリューションズ様社内CTFへの問題提供

分科会幹事達成目標

活動ポイント: チームで問題を5問以上作問 → CTF問題の提供へ

- 21個の問題を提供し、その中から主催者側に選出していただきました。

No	作問者	問題名	正答率	投票数	コメント
1	福井	Adversarial	87%	3	敵対的サンプルの実例を示す学びとして採用
2	福井	Copy_and_Paste			Geminiにログインできる環境を用意できないため採用見送り
3	宮崎	脆弱挨拶			動作確認不可につき採用見送り
4	福田	read_the_code	36%	4	リバースエンジニアリングの問題として採用
5	宇治川	ガラス越しの静けさ	93%	1	科学技術用語のOSINT調査問題として採用 (一部、出題内容変更)
6	星野	不審なログを探し出せ	45%	4	問題名「ログに出力された暗号を解け」としてCRYPTジャンルで出題
7	芦田	落とし物の場所	95%	1	GIS情報を活用する問題として採用 (一部、出題内容変更)
8	松浦	暗号は循環する	65%	10	RSA Low Public Exponent Attack の学びとして採用
9	西野	私の大好きな街			同様の問題が既に用意されていたため採用見送り
10	カ石	コードレビュー	69%	6	セキュアコーディングの学びとして採用
11	四方	この文字列は?	98%	1	初歩的な暗号問題として採用
12	須田	隠しファイル	56%	5	ファイル抽出スキルを問う学びとして採用
13	武内	ファイルを解析せよ	36%	3	ファイル変換スキルを問う学びとして採用
14	林	Substitution	96%	0	初歩的な暗号問題として採用
15	林	Find file	85%	1	効率的なファイル検索スキルを問う問題として採用
16	梅原	Stego-Locator			前年度同様の問題 (モールス信号) を出題していたため採用見送り
17	梅原	よく見かける車	73%	6	Google ストリートビューを活用するOSINT問題として採用
18	清水	Reverse me if you can	62%	5	リバースエンジニアリングの問題として採用
19	清水	この画像はどこでしょうか?			同様の問題が既に用意されていたため採用見送り
20	寺田	不審なログを探し出せ	42%	4	ログ分析のフォレンジック問題として採用

15問採用/21問作成

NTTドコモソリューションズ様からいただいたフィードバック

分科会幹事達成目標

活動ポイント: チームで問題を5問以上作問 → CTF問題の提供へ

今年は福井さんに、新ジャンルとなる「敵対的サンプル」をテーマにした問題を作問いただきました。

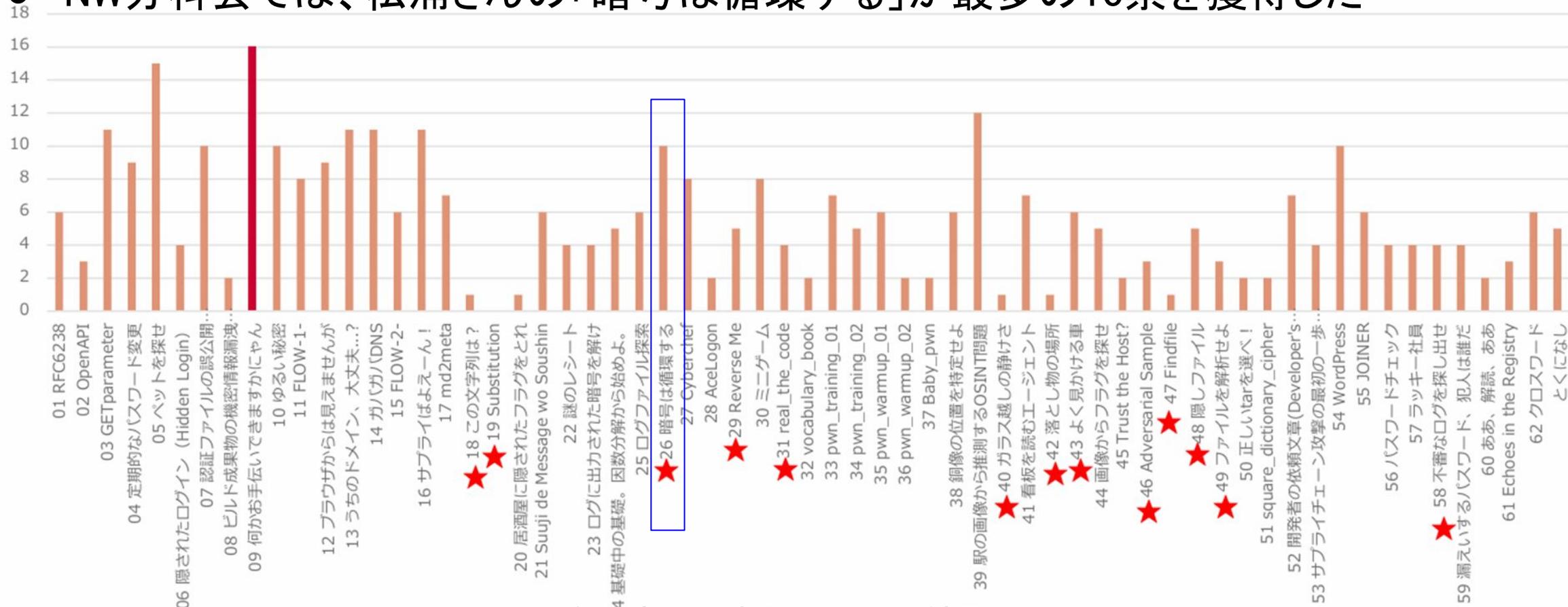
Loaded: flag.bin
Predicted: orange



分科会幹事達成目標

活動ポイント: チームで問題を5問以上作問 → CTF問題の提供へ

● NW分科会では、松浦さんの「暗号は循環する」が最多の10票を獲得した



参加者に対するアンケート結果

分科会幹事達成目標

活動ポイント: チームで問題を5問以上作問 → CTF問題の提供へ

NTTドコモソリューションズ様からの感謝状

感謝状

ISSスクエア ネットワーク分科会 殿

あなたは第14回dSOLセキュリティコンテストにおいて問題作問者として企画段階から運営に深く寄与され本コンテストの成功に多大な貢献をされました
よってここに感謝状を贈り心から感謝の意を表します

2026年2月4日

NTTドコモソリューションズ株式会社
技術革新本部 サイバーセキュリティ部

部長 楯 武士

目次

1. ネットワーク分科会紹介
2. 2025年度活動報告と実績
3. NTTドコモソリューションズ社内CTFへの問題提供
- 4. CTFかながわ2025への問題提供**
5. チームごとの振り返り
6. まとめ

4. CTFかながわ2025への問題提供

分科会幹事達成目標

活動ポイント: チームで問題を5問以上作問 → CTF問題の提供へ

- 20問のCTF問題作成・提供
- 今年度は11/28に開催

「第8回CTF神奈川」の実施について（ISSスクエア ネットワーク分科会協力）

1. 趣旨

第8回CTF神奈川は、警察・行政機関・サイバー防犯ボランティア等を対象として、IT関連企業や学術機関が問題作成を手掛けるCTF競技会を開催するものです。本競技会を通じて、参加者の知識・技能の研鑽およびサイバー空間の脅威に対する対処能力の向上を図るとともに、産学官民の連携を強化することを目的とします。

2. 実施日時等

- (1) 実施日時
和7年11月28日（金） 午前9時45分～午後5時
競技時間：午前10時～午後3時30分、解説等：午後4時～午後5時
- (2) 実施形式
会場での対面参加およびオンライン参加によるハイブリッド形式
- (3) 実施場所
情報セキュリティ大学院大学（横浜市神奈川区鶴屋町2丁目14番地1）
[アクセス](#)
※オンライン参加者は各自の執務室等

3. 参加対象

警察、行政機関、サイバー防犯ボランティア等

4. 主催等

- (1) 主催
神奈川サイバー犯罪対策研究会（情報セキュリティ大学院大学、NPO情報セキュリティフォーラム、神奈川県警察サイバーセキュリティ対策本部）
- (2) 協力
ISSスクエアネットワーク分科会、岩崎学園情報科学専門学校、香川大学創造工学部橋本正樹研究室、株式会社マクニカ、デロイト トーマツ サイバー合同会社、他

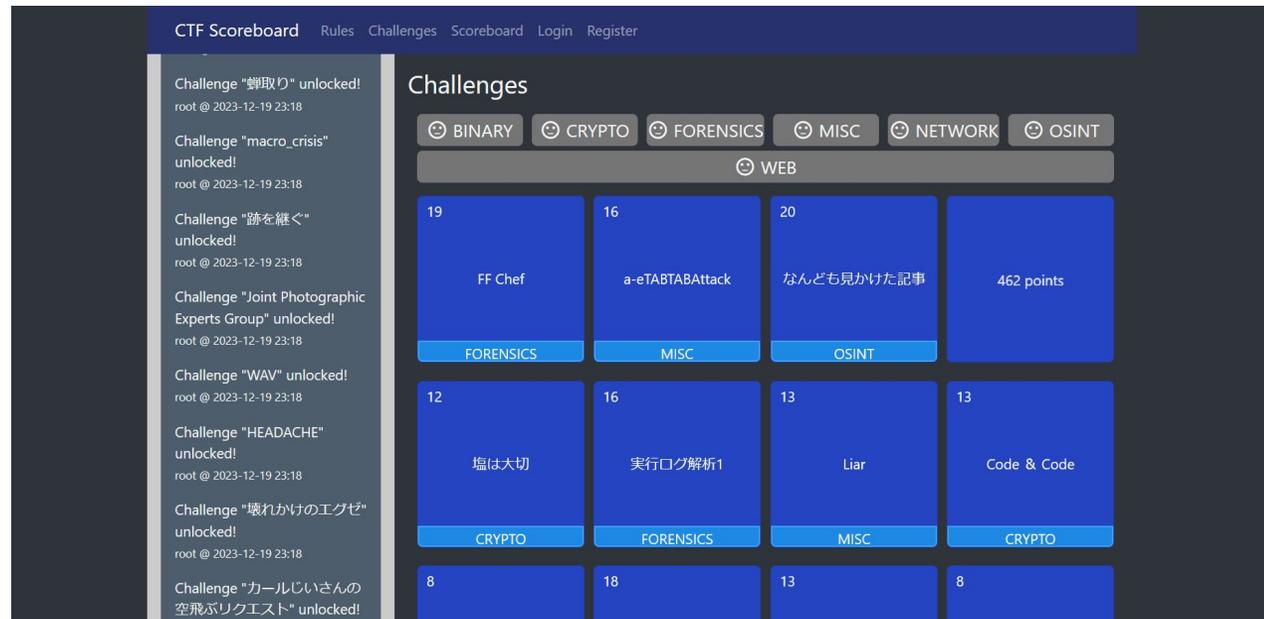
CTF神奈川開催概要

4. CTFかながわ2025への問題提供

分科会幹事達成目標

活動ポイント: チームで問題を5問以上作問 → CTF問題の提供へ

- 20問のCTF問題作成・提供



CTFかながわ(オンライン)の様子(一昨年度)
提供した問題

目次

1. ネットワーク分科会紹介
2. 2025年度活動報告と実績
3. NTTドコモソリューションズ社内CTFへの問題提供
4. CTFかながわ2025への問題提供
5. チームごとの振り返り
6. まとめ

研究リーダー

良かった点

- ✓ 対面での分科会と意見交換会を実施できた。
- ✓ 幹事を4名体制で実施したこと。

改善点

- ✓ 分科会外との連携方法(ノウハウの蓄積や継続性)を見直すこと。
- ✓ 分科会活動の引継ぎ方法(良いところを、どのようにして引き継いでいくのか?)

5. チームごとの振り返り

チームA

メンバー	研究リーダー設定目標 1. CTF問題の作問:2回 2. 前年度作問した問題を解く 3. 新規に1000ポイント獲得	幹事設定目標 チームで問題を5問以上作問	チーム設定目標 新ジャンルの開拓	個人目標
宮崎	1. 達成できた 2. 達成できた 3. 達成できた	チームで合計5問作問	敵対的サンプルをテーマとした作問できた。	達成できた
坂本	1. 達成できた 2. 達成できた 3. 達成できた			概ね達成できた
福井	1. 達成できた 2. 達成できた 3. 達成できた			達成できた
福田	1. 達成できた 2. 達成できた 3. 達成できた			達成できた
二神	1. 達成できた 2. 達成できた 3. 達成できた			達成できた

5. チームごとの振り返り

チームB

メンバー	研究リーダー設定目標 1. CTF問題の作問:2回 2. 前年度作問した問題を解く 3. 新規に1000ポイント獲得	幹事設定目標 チームで問題を5問以上作問	チーム設定目標 外部CTFへ参加	個人目標
星野	1. 達成できた 2. 達成できた 3. 達成できた	チームで合計4問作問	チーム全体で外部CTFに参加した他、各メンバーでの参加もあった	達成できた
宇治川	1. 達成できた 2. 達成できた 3. 達成できた			達成できた
松浦	1. 達成できた 2. 達成できた 3. 達成できた			達成できた
中井	1. 達成できた 2. 達成できた 3. 達成できた			達成できた
芦田	1. 達成できた 2. 達成できた 3. 達成できた			達成

5. チームごとの振り返り

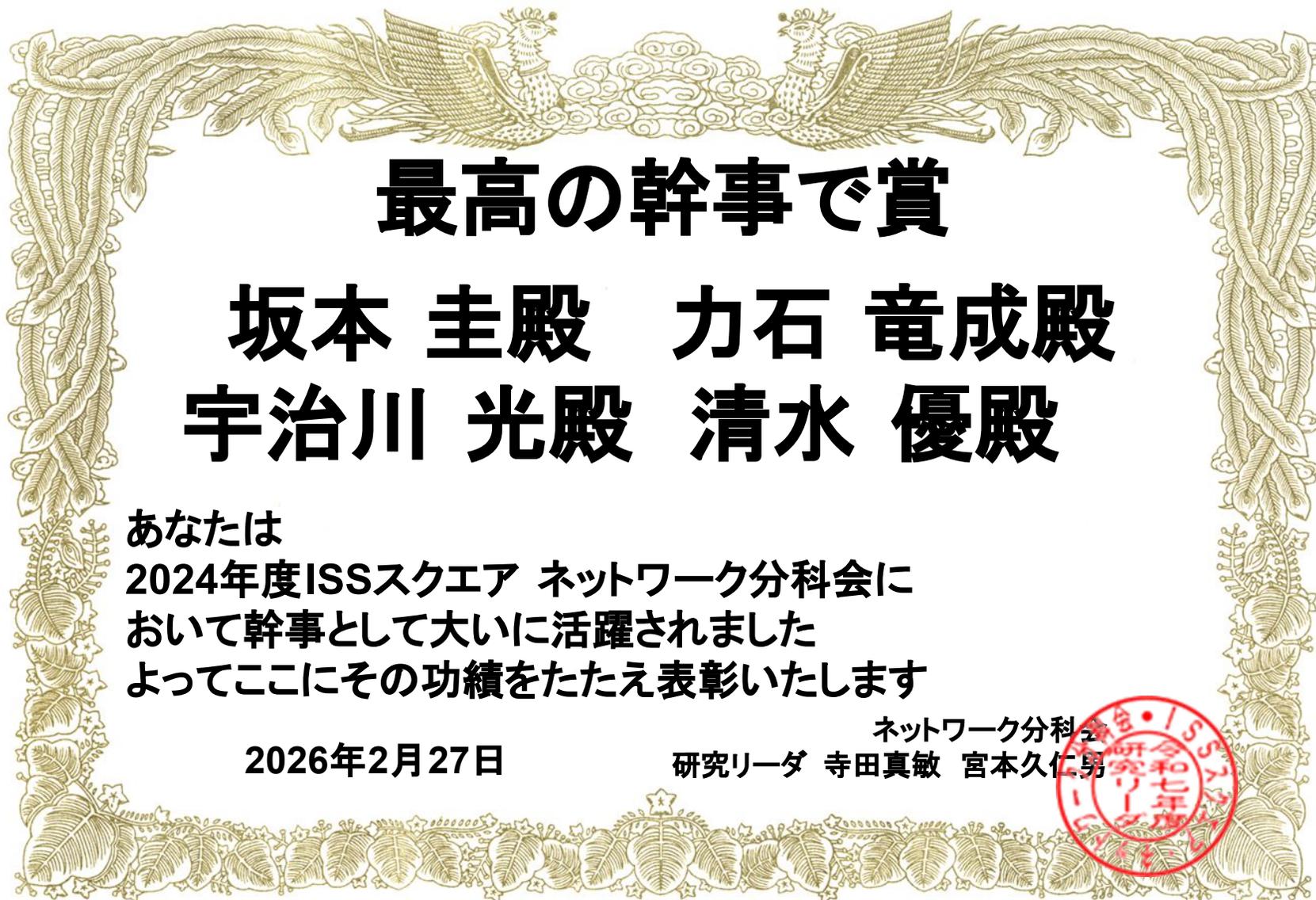
チームC

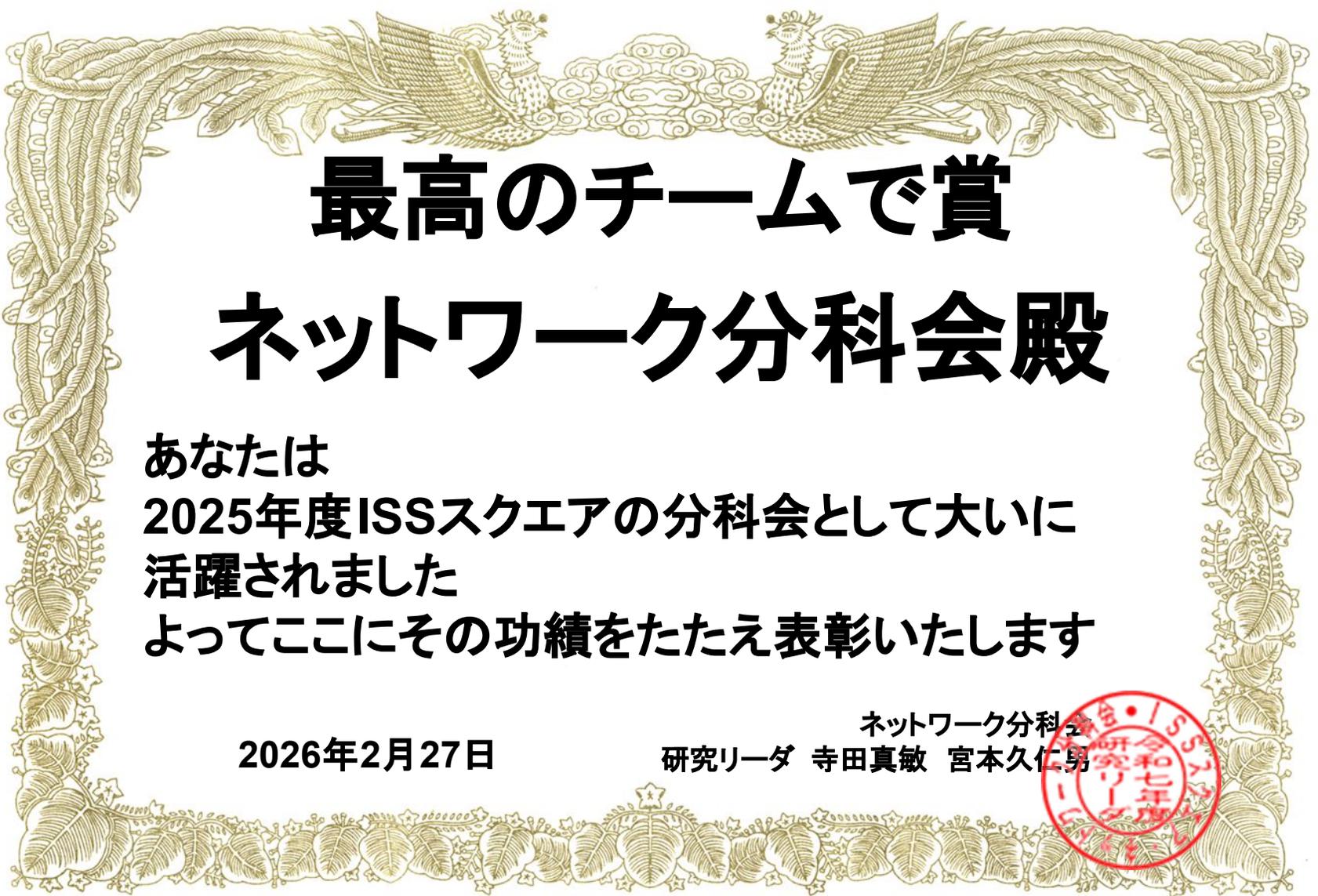
メンバー	研究リーダー設定目標 1. CTF問題の作問:2回 2. 前年度作問した問題を解く 3. 新規に1000ポイント獲得	幹事設定目標 チームで問題を5問以上作問	チーム設定目標 外部CTFへ参加	個人目標
カ石	1. 達成できた 2. 達成できた 3. 達成できた	チームで5問作成	未達成: 各々で参加したがチームでの参加は未達。	達成できた
四方	1. 達成できた 2. 達成できた 3. 達成できた			達成できた
武内	1. 未達成 2. 達成できた 3. 達成できた			達成できた
須田	1. 未達成 2. 達成できた 3. 達成できた			達成できた

5. チームごとの振り返り

チームD

メンバー	研究リーダー設定目標 1. CTF問題の作問:2回 2. 前年度作問した問題を解く 3. 新規に1000ポイント獲得	幹事設定目標 チームで問題を5問以上作問	チーム設定目標 一人あたり2問作問	個人目標
清水	1. 達成できた 2. 達成できた 3. 達成できた	チームで8問作成	達成できた	達成できた
林	1. 達成できた 2. 達成できた 3. 達成できた			達成できた
戸渡	1. 達成できた 2. 達成できた 3. 達成できた			達成できた
梅原	1. 達成できた 2. 達成できた 3. 達成できた			達成できた





最高のチームで賞 ネットワーク分科会殿

あなたは
2025年度ISSスクエアの分科会として大いに
活躍されました
よってここにその功績をたたえ表彰いたします

2026年2月27日

ネットワーク分科会
研究リーダー 寺田真敏 宮本久仁男



目次

1. ネットワーク分科会紹介
2. 2023年度活動報告と実績
3. NTTドコモソリューションズ社内CTFへの問題提供
4. CTFかながわ2025への問題提供
5. チームごとの振り返り
6. **まとめ**

まとめ

問題提供

- ✓ 「CTFかながわ2025」と「NTTドコモソリューションズ様社内CTF」に分科会として2回の問題提供を行った。
- ✓ 計画的に作問、分科会内でクロスチェックを行い、エラー問題の修正した上で、問題提供を行った。

チームごとの活動

- ✓ CTF問題に使うツールへの理解と各自の分野の幅が広がった。
- ✓ 昨年度に比べて更に外部CTFへ参加する機会が増加した。
- ✓ 来年度は今年度の情報を元に、効率的に知識やスキルをより深めたい。
- ✓ 来年度は「活動計画の策定とマイルストーン設定」という、基本的な(でも重要な)部分について、年度当初に適切に行えるようにする。

ご清聴ありがとうございました！